

## 沖縄県ハンドボール協会 スポーツインテグリティ研修会 (2023・3・5①)

本日は研修会にご参加頂きありがとうございました。皆さんの「私は、いま、こう思う」を個人が特定できないように加工して一覧にしています。研修会内で「自分の価値観」を言葉にし、ペアディスカッションで「他人の価値観」を知り、この振り返り Paper で同じ研修会内での仲間の「多様な価値観」を学ぶことに繋げてもらえればよいと思います。

生徒が引退するときにやっていた良かったと思える指導者になりたい。

体罰や暴言が当たり前の時代に育った私は、体罰や暴言に対して肯定的であった。本研修を受講して、1人の人間に対する人権を考えると、体罰・暴言は指導者のエゴなんだと感じた。今の時代、生徒・選手には丁寧に接してきたが、より一層相手の気持ちを考える指導者を心掛けていきたい。

これから指導者に携わっていく中で、子どもたちの成長の一部として、楽しみながら、ハンドボールがもっと好きにさせられる指導者になりたいと考えています。ただし、自分自身が謙虚な気持ちを持つことがまず、念頭に置いていきたいと思います。

改めて体罰、暴言はしない・させない・見逃さないことを意識して指導にあたる必要があると思いました。私はハンドボール専門ではないが、どのスポーツにも共通する内容なので、今後の部活指導に取り入れていきたいです。生徒に対する発言、言葉遣いは特に意識して行きたい。

もっと、もっと自分自身も沢山の知識を得て成長をしなければならないと思いました。

とても、考えさせられる講話でした。が今すぐ全ての指導方法を変えるというのは、正直、難しいので、今回の講話を振り返りながら、よりよい指導方法や生徒育成に務めていきたいと思います。

自分自身も体罰を学生時代に受けてきましたが、その先生を今でも尊敬し、指導者として目指す中で自分自身も過去に体罰と言われることをしてかもしれないと考えさせられました！！この講習を受けて今後の指導にも役立てていけるようになりたいし、自分自身も指導者として成長していきたいです！！

今回の講義を受講し、今まで漠然と捉えていた指導者としての役割について、改めて考えさせられました。4月からハンドボール部のない学校へ赴任することになり、ハンドボールとは離れることになると思いますが、今回の講義で学んだことは別の競技でも役立つと思うので、生かしていきたいと思いました。

日々努力しているつもりですが、自分の経験・指導は全ての人に当てはまる考えではないと受講して教育者として更に責任の重さ、難しさを感じている。変わらないといけないと思いつつも今すぐ答えはわからない。今後と日々考えながら過ごしていかないと考えている。

部活動は、教育の一貫だと思っています。また、部活動は生徒の活動の場なので、指導者が考え方を変えて生徒に指導しなくてはならないと思います。生徒とコミュニケーションをとりながら、良き敗者、良き勝者の生徒を育成出来るよう日々声かけしながら取り組んで行きたいです。とても貴重な研修でした。有難うございました。

今回の研修を受けて、自分自身見つめ直す事が多々あり、今後の糧に繋げていきたいと感じた。

ニュースや新聞で体罰や暴言が取り上げられるたびに、自分自身も発言に対して振り返る機会となっています。これからも、子どもたちのために学び続け、『目先の一勝より、この子の一生』を考えて指導に携わりたいと思います。

これまでの指導方法、あながち間違いではなかった。私、アンガーマネジメントの講師資格を持っていました。体罰無しの取り組みに、更に。

どんなスポーツであっても、生徒がこのスポーツをやっている良かったと思えるような指導を心がけていきたいと思いました。そして、その指導には体罰や暴言などは必要なく、生徒とコミュニケーションをとり信頼関係を築いていくことが必要だと気づきました。技術だけが重要ということではなく内面も育てていくためには、生徒の個性を尊重し、生徒達の成長に合わせて変えていかなければならないことも感じられる講義でした。

今回指導者の立場ではなく保護者代表として参加させて頂きました。今回研修を受け、指導者には何のためにとこういう指導をしているなどの説明が必要だと思いました。指導者を守るために、指摘の声をあげると言う事も、なるほど！と思いました。

指導観を揺さぶられた大変意義深い研修会でした。他人のこどもを預かっている、との認識を忘れずに指導していきたいと思いました。三輪先生、長時間にわたりありがとうございました。

今日の研修を通して、改めて「体罰・暴力」は絶対してはいけないことだと認識しました。指導者として『目先の一勝より、この子の一生』を念頭に情熱をもってときに冷静に指導にあたりたい。

とてもウチアタイする研修でした。暴力はない自信はありますが、暴言もないつもりでした。また信頼関係があれば、と言いつつ理解できませんでした。私は部活動の技術指導はほとんど携っていませんが、部活動の担当は今後も続いていくので、今日学んだことを肝に銘じ、子どもたちの成長に関わり続けたいと思います。

自分の経験・環境・考え方はあくまで自分にとっての価値観であって、今の子供達にとってはその価値観は当てはまらないものであると考えられされました。子供達の明るい未来の為にチームスタッフが一丸となって何がベストなのかを再度話し合っって考えていく必要があると思いました。

私は、スポーツを指導する部分で、体罰は絶対にダメだと思っています。今回の研修を通して、指導者として学び続け、より多くの生徒がハンドボールの指導者になりたいと感じられるような指導をしていきたいと感じました。これから、学び続けようと思いました。

目先の一勝より、この子の一生の言葉には心に刺さりました。指導しながら選手への言葉(声掛け)には常に注意しています、命令口調(言葉の最後に『れ！』にならない等です、たまには怒りたい場面もありますが、感情をコントロールしています。選手の未来を壊さない様に指導していきたいと思う。

今回の講習会を受けるまでは、自分の考えだけで体罰・暴言を理解しているつもりでした。しかし、今回の講習会を受けて、グループディスカッションを通し、他者の意見を踏まえながら意見交換する機会がとても貴重になりました。自分自身が体罰・暴言を受けた記憶がなく、とても良い指導者に恵まれていたと思います。自分が今まで教わってきたこ

とをそのまま生徒たちに伝えることや、自分の考え方も含めながら教えていきたいと思いました。その時は『相手によって言葉の捉え方は違う』ということが一番に考えて指導していきたいと思いました。これからの子供達が『ハンドボールって楽しいスポーツなんだ。』と感じ取れるような指導者になっていきたいです。とても良い経験になりました。ありがとうございました。

今年度から教員となり、初めて部活顧問を担当し試行錯誤、苦勞の1年間でした。この1年間、指導方法について悩むことが本当に多かったなと感じます。本日の講義の中で、心罰という言葉を知りました。学生時代の講義から体罰について学ぶことは多く、自分自身絶対に体罰は否定派であり絶対にすることはないだろうと思っています。しかし、心罰についてはどうだったろうと省みるきっかけになりました。

体罰は、減ってきたと思うが暴言がまだ指導現場には残っているのではないかと思います。人によって認識が異なるので、周りの指導者が注意していかないと行けないと思いました。

今までの子供たちへのことばかけは、どうだったのかな？と振り返ることが必要だと思っています！子供たちへのことばかけは、特に意識して言葉を選ばなければいけないと思いました！

部活動で体罰をする人に対して、私は強い怒りと失望を感じます。体罰は人格形成に大きな影響を与えるだけでなく、精神的・心理的な傷を負わせることがあります。部活動は体力と技術を養う場であるとともに、心を成長させる場でもあると思います。しかし、体罰をする指導者は、恐怖やパワーハラスメントを通じて、部員達の心に一生に渡る傷をつけてしまうことがあります。これでは、本来の目的を達成することはできず、むしろ逆効果となりかねません。体罰を行う指導者は、指導者としての資質が問われます。人を尊重し、信頼できる人格者であることが求められると思います。指導者としての責任を果たさない人間には、指導者としての地位を剥奪すべきだと考えます。部員達にとって素晴らしい部活動を提供するためには、指導者自身もまた、自己研鑽を重ね、成長し続ける必要があると考えています。本日は研修を開いてくださり、ありがとうございました。

小学生ハンドボールの子を持つ保護者で、部活のサポートをさせてもらっています。この研修を受けるまでは、勝つ喜びや、スポーツの楽しさを学べるのが部活だと思っていました。試合が出来る事、勝負の喜びや悔しさ、スポーツができる環境や仲間に感謝、対戦相手に感謝する事など子供達に伝え、教えていきたい。

学びが多かった。生徒を守るためにも、自分自身、仲間、家族を守るためにも、教育職に従事する者として、時代に即して学び続けて、指導者、支援者の役割や責任をアップデートしていきたいと感じた。この研修内容は、時間を取って、ハンドボールに限らず、生徒に関わる色んなところに機会を作った方がよいかと感じる。

今回この研修を受けて、保護者としての立場でしたが子供たちに対する暴言、体罰について深く考えさせられました。サポートする側にしても、子供たちへの声かけ一つ一つでもその子の性格によっても受け取り方が変わってくるので、今まで暴言だとは感じてなかった言葉も暴言へとなりうるのだと思うと、難しく感じた。体罰が良いものとは思わないけど、暴言っていう言葉にすると悪く感じることも今までは信頼関係あってこそ！の言葉で、悪く感じないから良いだろうという感覚だった。しかし、それが脳の萎縮に繋がる、暴言を受けている子だけじゃなく、それを聞いている、見ている周りの子にも同じ影響があるという研究結果があるという事実を知って驚きました。体罰、暴言を環境や信頼感で良し悪しするのではなく、そういう指導をしない方法をみつけだしていくことが大切だと感じた。保護者としてのサポート側ではあるが、声かけの仕方、サポートの仕方もあるべきだと思いました。今まで考えたこともなかったことをたくさん考える機会になりました。ありがとうございました。

今研修は部活動の指導者としてではなく、いち教育者として大変勉強になりました。プレイヤーズセンタードという言葉が最初に聞いて、研修を受けた後も本当にその通りだなと思いました。体罰に関する考え方、指導者としての考え方をしっかり持ってこれから生徒のために指導していきたいと思います。

今回の講習会を受講して、改めて『体罰・暴言』は絶対にやってはいけない事なんだと思いました。「これくらいは良いんじゃないか」と安易に考えていた自分自身を戒めています。これまでも、子供達が自分で考え行動出来ることを目指して指導してきましたが、今日この講習を受講して私自身ももっと学ばなければいけないと強く思いました。本日は本当にありがとうございます。

この講義を受けなさいと連絡が来た際、「殴るやつだけ受ければいいのに」と思った。しかし講義の中で暴言の部分は完全に自分に当てはまるものであり、最初の心持ちを反省した。指導者として、というよりもっと大きく教員として考えさせられる講義で、何のために自分は指導を行い、どのように思って欲しいのか。どのようなことを伝えたいのか、ということ考えるきっかけになった。練習に化粧をした生徒に「帰れ」といったことがある。あのときどのような声掛けをすべきだったのか。一緒にお話をした先生が「落としてまたここに戻ってこいと言うことが伝わればねー」という言葉に自分自身の「帰れ」という言葉にどれだけの隠れた意味があるのかということに気付かされ、また伝えきれていないことを自覚した。生徒たちは変わってはいなく、社会が正常に向かっているということを私たちは気づくべきだと思う。三輪先生、期待値を飛び越える講義、ありがとうございます。このように求めている人たちに対する講義、ひたすらに大変なことかと思いますが、タメになりました。ありがとうございます。自分の次の世代に恩返しをしたいと思います。ありがとうございました。

ハンドボール指導における体罰と暴言についての内容だったが、ハンドボールの指導だけではなく、学校での場面や自分の子供に対する教育(しつけ)についても考えさせられました。ハンドボールの指導に関しては「良き敗者」という言葉がかなり印象に残っています。初心者中心のチームで、チームとして公式戦で1度しか勝ったことがないため、負けた後の行動は「次」を意識するものばかりでした。まずは対戦相手や選手たちへの賞賛や労いを行い、ハンドボールの良さを伝えて行くことが必要だと感じました。暴言については、躰との境目がわからなくなっていないか再確認する必要があります。自分の子供に対する躰も見直します。とても有意義な2時間でした。ありがとうございました。

私は、勝負に勝つ喜び、そこまでの過程が大事と考え指導をしてきました。しかし、それはあくまで私の経験からの考えであり、私のみの成功体験だと気付かされました。今後は私ではなく、目の前にいる生徒の目的意識に合わせて指導をしようと考えました。また、スポーツの矛盾、持つ意味を言語化して知れたのはとても良かったです。ありがとうございました。

小学生、中学生を指導して数年が経ち今回の研修会で指導のあり方を改めてみたいと感じました。言葉の使い方、発し方を考えたいと思います。ありがとうございました。

ハンドボールだけでなく、すべてのことに関係する内容だと感じました。体罰、暴言がいけないことと知ってはいましたが、その与える影響の大きさを知ることができました。今回の講義内容を忘れず、今後指導者としてどうあるべきか心がけながら取り組んでいきたいと思います。本日は貴重なお話を、ありがとうございました。

ちょうど、部活動のあり方について考え始めて半年、私もチームも気持ちのいい活動ができ始めたタイミングでの研修でした。現在は、チームに対し、勝ち負けでなく自分たちの目標に向かって前進したかどうかで成長を感じよう。とい

う共通認識のもと、チャレンジすることを最重要に運営しています。しかし、やはりやるからには勝ちたい選手が存在します。負けて悔しい気持ちがなくて次につながるのかと言われると答えに困ります。今日の研修では、自分なりの答えに少しだけ近づいたような気がしました。これから、私は幼稚園のとき、先生にしてもらったように、子どもの未来のために優しく支えになれるコーチを目指したいという気持ちと、そのような指導者や親を増やしたいという気持ちが芽生えました。新たな目標ができたことに感謝します。ありがとうございました。

保護者、部活の役員として参加しました。この講習を受けて、指導者、保護者、子供達とのコミュニケーションの大切さ、言葉で伝えて指導する難しさを知りました。指導者ではありませんが、役員と言う立場で部活動に関わる際に、声掛けなど気をつけようと思います。自分の子供以外にも話せる雰囲気を作り、みなが楽しく、ハンドボール出来るように見守りたいと思いました。今日はありがとうございました。

体罰に関して元々否定派の考えでしたが、受講してさらに強くしてはいけないと思いました。勝利至上主義のチームではなく、生涯を通してハンドボールに親しんでくれるような指導者を目指したい。その為にも、これまで経験に頼ってきた指導ではなく、正しい知識を身に着け指導者としても成長したいと思いました。

ハンドボールの指導だけではなく、教育活動、子育てにおいて、心のどこかで「体罰・暴言」は必要によっては許されるという考えがあったように思う。しかし、今回受講する中で、このような行動は育てていきたい子ども達像やこうありたいという自分像からかけ離れたものであると実感しました。自分自身を今一度見つめ直し、関わる全ての人の「未来」を考え指導していきたいと思いました。

息子が数年前に小学校を卒業しましたか、父母会からの依頼もあり、小学校でコーチをしています。本日の講習会。部活だけでなく、家庭内、職場内にも共通する格言が数々あり、自分自身を振り返る意味で、とてもためになる時間でした。自分の立場を錯覚することなく、プレイヤーズ・センタードで取り組もうと思います。

初めて研修会に参加しましたが、体罰や暴言について時代によって、変わっていくんだなと思いました。それぞれ価値観があるように、伝えるだけでなく相手の捉え方によっても違うんだなと思いました。

元々体罰・暴言に対して否定的な立場であるが、今研修を受けてその思いがさらに強くなりました。これからも指導していく中で、気を付けて行きたいと思います。

長年、指導者としてハンドボールに携わってきたが、時代も変わり今日の研修の色々な部分で過去の自分が指導してきたことが今の時代において問題となっていくと思った。指導者も時代によって指導方法の研鑽に努めていかなければならないと感じた。良い研修でした。ありがとうございました。

本日は、ありがとうございました。指導者の役割と責任について、改めて意識を変えなければと思いました。知らずに暴言になっていないかなど、本当に気をつけなければならないと思いました。閉鎖的な空間で、短時間での効果を得るためになりふり構わずの指導者の言動は、間違いなく、意味のないことであり、選手にとって充実するものではないと感じました。選手を中心に選手の為に、生活の一部としての充実に支援していきたいと思いました。本日は、ありがとうございました。

3年前の資格研修でも自分を振り返り指導環境について考える機会がありました。今回も学び続ける必要性を改めて痛感しました。まだまだ自分を変えていけると思います。

体罰暴言をやらないでほしい理由のなかで、自分を守るという点に納得しました。学校内でも現在、SNS 等で指導者を誹謗中傷で問題があり、信頼関係を構築することの難しさを痛感しました。今回の講習会で、生徒に寄り添い、生徒たちの一生に関わる大事な時期を共有できることを喜べる指導者になりたいです。

生徒達がハンドボールが大好きで、将来もハンドに関わっていきたいと思えるようなチーム作りをしたい。

最後の守れなかったという言葉がとても印象に残りました。私は 20 数年間指導者として、だんだん考え方も変化し、最近ではハンドボールに関わることは人生を豊かにすることだという考えに至りました。その指導法で体罰は必要ないと改めて感じました。

全国各地で体罰・暴言の問題がなくなる現状がある中で、体罰・暴言を行なったことのない指導者に対しても今日のような研修が戒めになり日頃の指導を改めて振り返る時間になると感じました。体罰はドーピングとあったように一時的な効力を発揮するかもしれませんが、仮にそれで優勝をして賞賛されても、優勝チームは 1 チームしかいないわけで、それよりも体罰・暴力のない指導でバーンアウトさせない、今後の人生で何かに取り組み続ける力をつけてもらえるような選手、そういうことの方が大事だと伝えられる指導者を目指したいと思いました。

部活指導だけでなく、教員、親としても聴いていました。自省することが多く、「では、どうすればいいのか」と自問自答をしています。充実感を感じてもらえるような指導をしていきたい。と思います。

次世代を育てる立場という意識と責任を持って、私自身も学び続けながら、目の前の生徒に対応していこうと思う。勉強になりました。ありがとうございました。

これまで、経験をもとに指導してきたが、新しい技術、指導も取り入れてハンド指導にいかねければと反省させられました。特に、受講者の感想が参考になり、さまざまな考え方をすることができました。

私が学生の頃は体罰が普通に行われており、私もよくされました。しかし、思い返してみると、納得したことはなく、いつも理不尽を感じていました。今のこの体罰を容認しない流れは当然で、自分自身もないように努めていきたいと考えています。

研修会を受講して色々と学ぶ事が出来ました。研修会で学んだ事を子供達や自分の家庭でも取組んでみたいです。

今回の研修を開催していただいたことに感謝しています。この研修を各学校で伝えてもらい、他の競技団体でも同様に研修会を実施してほしいです。また、沖縄県のお家芸として、ハンドボール競技が引っ張っていく事が大切だと思います。今日は、ありがとうございました。

年度末のお忙しい中、研修の機会を設けて頂きありがとうございます。3~4 年前にも仲田先生を講師に迎え、インテグリティの研修会に参加しました。今回、再度インテグリティについて、ハラスメント関係の研修会を受講し、改めて再確認でき、良かったと思っています。今回、研修会に参加し、最も考えたことは、数年前の研修会を受講して終わりではなく、継続して受講していくことが大切だと感じたことです。今回、その機会を得て改めて良かったと感じています。ありがとうございました。